

## 【資料】

## 城西大学卒業生の職業観についての実態調査

須 齊 英 樹

1. はじめに
2. 調査実施の概要
3. 調査項目と調査結果の概要
4. 回生ごとの集計結果
5. おわりに

## I はじめに

現在、人々の仕事とレジャーにたいする考え方の変化がしばしば伝えられている。実際には、かれらは、どのように仕事と取り組み、どのようにレジャーを取り入れ、そして仕事とレジャーをどのように関係付けているのだろうか。人々が、仕事を生活の手段としてではなく、仕事それ自体の中に生きがいを見出すことが可能とされるような「人間と組織」のあり方を探究するうえで、上記の問題をわずかでも明らかにしたいという意図から、この実態調査は計画された。今回の調査項目は余暇の過ごし方、生きがい、学習、職務満足、転職であり、それぞれの項目は3、4の相互に関連した質問から成っている。

幸運にも、昭和59年度城西大学研究奨励金の交付が決定されたために、われわれの実態調査はデスク・プランに終ることなく、実施が可能となった。質問票を作成する段階で、経済学部の大木靖郎助教授、松本三和夫講師、龍慶昭講師から貴重なアドバイスを頂き、それによって2、3の項目が改善された。回答の集計は、情報処理センターの小宮隆志氏の協力によって手際よく進められた。これまでに実施された調査の検討から、質問票の作成、封筒の宛名書き、質問票の発送作業、アフター・コーディング、コンピューターに記憶されたデータのチェックに至るまで、ゼミナールの学生諸君（伊藤仁、井上満夫、大島桂介、太田修一、梶山正一、小島匡、齊田直、白沢一修、玉田敏、田村誠、蛭川雅人、堀清張、三浦裕二、水谷洋一）の自主的な協力がなければ、この調査は実行できなかつただろう。

## II 調査実施の概要

## (1) 調査の目的

人々の仕事とレジャーにたいする考え方とその問題状況を的確に把握し、かれらの仕事やレジ

ャーにおける自己実現と、かれらの組織にたいする要求を検討する基礎資料とする。

## (2) 調査対象者

城西大学経済学部卒業生 5,432人

内訳

第1～7回生（昭和43～9年度卒業）	1,766人
第10, 11回生（昭和52, 3年度卒業）	1,782人
第15, 16回生（昭和57, 8年度卒業）	1,884人

## (3) 調査方法

質問票によるアンケート調査

## (4) 調査実施者

城西大学経済学部 須斉ゼミナール

## (5) 調査経過

質問票発送	昭和59年8月6, 7日
回収締切	昭和59年10月31日
集計作業	昭和59年11月～昭和60年1月

## (6) 回収状況

回収合計	646
使用不能	3
回収有効票	643

## Ⅲ 調査項目と調査結果の概要

### (1) フェイス・シート

回答者の96.3パーセントが男性であり、女性はわずか3.7パーセントである。

Q3 あなたの家族構成はどれですか。

- |         |             |
|---------|-------------|
| 1 独身    | 4 夫婦と祖父母    |
| 2 夫婦のみ  | 5 夫婦と子供と祖父母 |
| 3 夫婦と子供 | 6 その他       |

この質問は、回答者が結婚しているか否か、子供の有無、両親と同居しているか否かによって、人々の仕事やレジャーにたいする考え方にかかなりの相違があると思われるので、元来クロス集計に仕用するために設けられたものである。

1～7回生では、夫婦と子供の家族構成の人が94人（45.9%）で最も多く、10, 11回生では、独身者が91人（39.1%）で最大であり、15, 16回生では、独身者が152人（74.1%）で最大であ

る。これはそれぞれの回生の年齢の違いによるものである。

Q 4-1 あなたの職業はどれですか。

- |           |               |
|-----------|---------------|
| 1 自営業     | 6 工場作業員       |
| 2 会社事務員   | 7 公務員・教職員     |
| 3 管理職     | 8 家事          |
| 4 販売従業員   | 9 その他（具体的に記入） |
| 5 サービス従業員 |               |

この質問は、仕事の内容と人々の仕事やレジャーにたいする考え方をクロス集計するために設けられたものである。

回生が後になるほど、増加する傾向にある職業と、減少する傾向にある職業がある。自営業（15.1%、15.0%、6.3%）と管理職（17.6%、4.3%、1.5%）に認められる減少傾向は、年齢や経験によるものと思われる。販売従業員（12.7%、24.5%、35.1%）とサービス従業員（2.4%、4.3%、12.2%）の増加傾向、反対に公務員・教職員（24.9%、19.7%、12.7%）の減少傾向は求人側の必要人員の変化によるものである。

Q 4-2 あなたの勤務先はどの産業に属しますか。

- |                 |                |
|-----------------|----------------|
| 1 農・林・漁業        | 7 卸売業、小売業、飲食店  |
| 2 鉱業            | 8 金融・保険業       |
| 3 建設業           | 9 不動産業         |
| 4 製造業           | 10 サービス業       |
| 5 電気・ガス・熱供給・水道業 | 11 公務          |
| 6 運輸・通信業        | 12 その他（具体的に記入） |

この質問は他の調査との比較にそなえて設けられたものである。

Q 4-3 あなたが勤務している企業の規模はどれくらいですか。（現在の勤務地だけで）

- |             |              |
|-------------|--------------|
| 1 10人未満     | 4 100~500人未満 |
| 2 10~30人未満  | 5 500人以上     |
| 3 30~100人未満 |              |

この質問はクロス集計用に設けられたものである。

全般に回生が後になるほど、勤務先がやや小規模化する傾向がある。例外は10人未満の企業に勤務する人で、回生が後になるほど減少している（24.9%、19.7%、10.7%）のは、自営業の人

数を反映しているものと思われる。

Q5 あなたは通勤に片道どのくらいかかりますか。

- |              |              |
|--------------|--------------|
| 1 30分以内      | 4 1時間半～2時間未満 |
| 2 31～60分未満   | 5 2時間以上      |
| 3 1時間～1時間半未満 |              |

この質問は、一般に通勤時間が年々長くなるという傾向が伝えられているので、通勤時間の長さが人々の仕事やレジャーにたいする考え方にかかなりの影響を与えるものと推察して、クロス集計用に設けたものである。しかし調査結果は、80パーセント前後が1時間以内という意外なものであった。

## (2) 余暇の過ごし方

この項目は平日、休日、長期休暇の余暇をどのように過しているかという質問と、収入の増加とレジャー機会の増大のどちらを重要視するかという質問から成っている。余暇の過ごし方についての質問は、回答者に自由に記述するように求め、下記に示すような分類カテゴリー<sup>1)</sup>に基づいてアフター・コーディングがおこなわれた。

- |          |          |
|----------|----------|
| 1 休むレジャー | 4 買物レジャー |
| 2 見るレジャー | 5 働くレジャー |
| 3 するレジャー | 6 その他    |

Q6-1 あなたは平日の余暇をどのように過していますか。(記述してください)

どの回生においても、最も多いのは「2見るレジャー」である。それが、1～7回生の37.6パーセント、10、11回生の43.3パーセント、15、16回生の38.5パーセントを占める。つぎに多いのは、「3するレジャー」と「1休むレジャー」である。回生間に大きな変化は認められない。他の回生との比較で、10、11回生に「2見るレジャー」が、15、16回生に「1休むレジャー」がやや多いのが目につく程度である。

Q6-2 あなたは休日の余暇をどのように過していますか。(記述してください)

休日になると、過半数の人々が「3するレジャー」に属す。その比率は1～7回生の53.7パーセント、10、11回生の59.7パーセント、15、16回生の66.8パーセントである。回生が後になるほど増加する傾向の原因として、年齢、家族構成、意識の変化などが考えられるが、それらのどれかは、時系列比較やクロス集計によらなければ決定できない。他に目につくのは、1～7回生に

「1 休むレジャー」を，1～7回生と10，11回生に「5 働くレジャー」を選んだ人がいくらか多いことである。

Q 6－3 あなたは長期休暇（夏休，年末年始休など）をどのように過していますか。（記述してください）

長期休暇になると、「3 するレジャー」が増加するという全体的傾向はさらに顕著になる。その比率は，1～7回生の68.6パーセント，10，11回生の71.7パーセント，15，16回生の77.6パーセントにも上る。長期休暇にも，回生が後になるほど，「3 するレジャー」が増加する傾向が認められる。他方，どの回生においても，「1 休むレジャー」や「2 見るレジャー」はさらに減少している。Q 6－1，Q 6－2，Q 6－3を比較することによって，余暇時間の増加が，人々の余暇の過し方を受動的なものから能動的なものに変える効果をもつと言ってもよいだろう。

Q 6－4 あなたは収入の増加とレジャー機会の増大のどちらを重要視しますか。

- 1 労働時間の短縮よりも収入の増加がさきだ
- 2 どちらかといえば収入の増加を望む
- 3 どちらともいえない
- 4 どちらかといえば自由な時間が欲しい
- 5 収入の増加よりも自由な時間がさきだ

収入を重要視する人と時間を重要視する人の比率は，1～7回生が53.2パーセント対33.7パーセント，10，11回生が57.1パーセント対27.9パーセント，15，16回生が42.9パーセント対42.4パーセントである。全体的に，回生が後になるほど，収入を重要視する人が減少し，時間を重要視する人が増加する傾向があり，15，16回生では両者がほとんど同数になっている。10，11回生のところで，収入を重要視する人が増加し，時間を重要視する人が減少するのは，かれらが28歳前後であり，結婚や出産によって生活費がかさむためであろう。

### (3) 生きがい

この項目は生きがいを感じている対象，生きがいを感じる時，仕事とレジャーにたいする考え方の3つから成っている。

Q 7－1 あなたが最も生きがいを感じているのはどれですか。（1つだけ）

- |                |               |
|----------------|---------------|
| 1 趣味娯楽などのレジャー  | 3 家庭の建設や子供の育成 |
| 2 収入を主な目的とする仕事 | 4 その他         |

仕事に生きがいを感じている人の比率は、すべての回生を通して一定である。それは、1～7回生が22.0パーセント、10、11回生が21.5パーセント、15、16回生が20.0パーセントである。これらの比率は、これまでに実施された同様ななどの調査<sup>2)</sup>よりも高い。年齢が高くなる（回生が先になる）につれて、「1 趣味娯楽などのレジャー」を選ぶ人が減少し、反対に「3 家庭の建設や子供の育成」を選ぶ人が増加する。くわしく述べると、15、16回生で63.4パーセントを占めた「1 趣味娯楽などのレジャー」が、10、11回生では43.8パーセントに、1～7回生では25.4パーセントに減少する。他方、15、16回生で7.3パーセントであった「3 家庭の建設や子供の育成」が、10、11回生では23.6パーセントに、1～7回生では43.4パーセントに増加する。このことは、独身の時に「1 趣味娯楽などのレジャー」に生きがいを感じていた人の中で、結婚や出産を機会に「3 家庭の建設や子供の育成」が生きがいとなるかなり多くの人々の存在を示している。

Q7-2 あなたが最も生きがいを感じているのはどんな時ですか。(重要な順に2つまで)

- |                  |                |
|------------------|----------------|
| 1 自己の能力が発揮できた時   | 7 家族の団らんの時     |
| 2 人間関係がうまくいっている時 | 8 信仰や理想に生きる時   |
| 3 自分が社会に役立っている時  | 9 健康で平穏な日が続く時  |
| 4 生活が豊かになったと思う時  | 10 将来のことを考える時  |
| 5 子供の成長をながめる時    | 11 特になし        |
| 6 レジャーを楽しむ時      | 12 その他(具体的に記入) |

「1 自己の能力が発揮できた時」を選んだ人が、すべての回生を通して最も多く、同時にかなり一定している。それは、1～7回生が56.1パーセント、10、11回生が47.6パーセント、15、16回生が56.6パーセントである<sup>3)</sup>。比率は半減するが、つぎに多いのは、1～7回生では「9 健康で平穏な日が続く時」であり、10、11回生では「6 レジャーを楽しむ時」、「2 人間関係がうまくいっている時」、「9 健康で平穏な日が続く時」、15、16回生では「6 レジャーを楽しむ時」、「2 人間関係がうまくいっている時」である。年齢とともに、レジャーや人間関係に生きがいを感じる人が減少し、健康で平穏な日々生きがいを感じる人が増加するということである。

Q7-3 あなたは仕事とレジャーの関係をどのように考えていますか。

- 1 仕事は人間のつとめだ。レジャーのことなど考えずに、いっしょうけんめい仕事にうちこみたい。
- 2 仕事はよろするに生活の手段にすぎない。レジャーを楽しむことが人間の生きがいだ。
- 3 仕事は仕事、レジャーはレジャーだ。仕事は適当にかたづけ、レジャーはレジャー

でほどほどに楽しみたい。

- 4 仕事がレジャーを楽しくし、レジャーが仕事の活力となる。いっしょうけんめい仕事をし、思う存分レジャーを楽しみたい。
- 5 仕事さえしていれば楽しい、仕事とレジャーの区別はしていない。だから仕事から解放されてレジャーを楽しみたいとは思わない。
- 6 その他（あなたの考え方を記述してください）

「4 仕事がレジャーを楽しくし、レジャーが仕事の活力となる。いっしょうけんめい仕事をし、思う存分レジャーを楽しみたい」という統合型を選んだ人が、すべての回生を通して圧倒的な多数を占める。それは、1～7回生で82.9パーセント、10、11回生で69.5パーセント、15、16回生で73.2パーセントにもものぼる。これらの比率は、これまでに実施された同様などの調査<sup>4)</sup>よりも高い。つぎに多いのは、どの回生も「3 仕事は仕事、レジャーはレジャーだ。仕事は適当にかたづけ、レジャーはレジャーでほどほどに楽しみたい。」という分裂型である。それは、1～7回生で6.3パーセント、10、11回生で17.6パーセント、15、16回生で15.1パーセントであり、同様などの調査よりも低い。レジャーを楽しむことが一般に普及し、人々の余暇における変身（心も）が話題になっているが、実際には大多数の人々が仕事とレジャーの補完的な統合を希望しているということである。

#### (4) 学 習

この項目は、大学で得られたもの、大学卒業後の学ぶ機会、その内容、利用機関や施設についての間である。

Q8-1 あなたは大学で何が得られたと思いますか。（重要な順に2つまで）

- 1 専門的な知識が身についた
- 2 職業的スキルが身についた
- 3 一般的な教養が身についた
- 4 自分の才能を見つけ出し、それを伸ばすことができた
- 5 先生との個人的接触をもつことができた
- 6 学友との深い友情が得られた
- 7 学生生活を楽しむことができた
- 8 特になし
- 9 その他（具体的に記入）

1～7回生と10、11回生では、「7 学生生活を楽しむことができた」が最も多く、つぎに「6 学友との深い友情が得られた」、そして「3 一般的教養が身についた」である。15、16回生では、

わずかの差ではあるが、最も多いのは「6 学友との深い友情が得られた」であり、つぎに「7 学生生活を楽しむことができた」と「3 一般的教養が身についた」である。回生間の 変化では、「6 学友との深い友情が得られた」が増加する傾向（40.5%、48.9%、60.5%）<sup>5)</sup>を示し、「3 一般的教養が身についた」が減少する傾向（39.5%、34.8%、23.9%）を示している。「7 学生生活を楽しむことができた」はほとんど一定（55.1%、52.4%、58.5%）である。

Q 8-2 あなたは大学卒業後、何かを学ぶ機会をもちましたか。あるいは何かを学ぶ機会をもちたいと思いますか。

- 1 何かを学ぶ機会を得た
- 2 ぜひ学ぶ機会をもちたいと思い、そのために準備している
- 3 機会にめぐまれたならば、学びたい
- 4 機会があっても、学ばないだろう
- 5 学ぶ必要を感じない

すべての回生を通して、「1 何かを学ぶ機会を得た」が最も多く、約半数を占める。つぎに「3 機会にめぐまれたならば、学びたい」、「2 ぜひ学ぶ機会をもちたいと思い、そのために準備している」である。「2 ぜひ学ぶ機会をもちたいと思い、そのために準備している」と答えた人数は多くはないが増加の傾向がみえる（6.3パーセント、7.7パーセント、15.1パーセント）。

（Q 8-2 で 1, 2, 3 と答えた方に）

Q 8-3 あなたが学んでいる、あるいは学びたいと思う内容はどれですか。

- |                |                  |
|----------------|------------------|
| 1 職業上必要な知識や技術  | 4 家庭生活に役立つ知識や技術  |
| 2 職業に関連する知識や技術 | 5 趣味や余暇に役立つ知識や技術 |
| 3 一般的な教養       | 6 その他（具体的に記入）    |

すべての回生において、「1 職業上必要な知識と技術」や「2 職業に関連する知識や技術」をあげる人が多い。それぞれ30パーセント台で、両者の差はわずかである。

（Q 8-2 で 1, 2, 3 と答えた方に）

Q 8-4 あなたはどのような機関や施設を利用していますか、あるいは利用したいと思いませんか。

- |           |                    |
|-----------|--------------------|
| 1 図書館     | 4 社内研修制度           |
| 2 大学の公開講座 | 5 通信講座             |
| 3 専門学校    | 6 カルチャ・センターやスポーツ教室 |



## 7 サークル活動

## 8 その他（具体的に記入）

すべての回生を通して最も多く利用されているのは、「4社内研修制度」であるが、それでも20パーセント台を占めるにすぎない。利用機関や施設における主な特徴は、新しい機関や施設が加わることによって、利用者がさまざまな機関や施設に広く分散するという傾向である。15, 16回生に関しては、最も多い「4社内研修制度」が27.3パーセント、つぎに「5通信講座」と「6カルチャ・センターやスポーツ教室」がそれぞれ13.2パーセント、「1図書館」が12.7パーセント、そして「7サークル活動」が10.2パーセントと続いている。

## (5) 職務満足

この項目には、満足か不満足かを問う質問が3つ、満足あるいは不満足の原因を問うものが1つ含まれている。前者は3つの方法相互間の比較を、後者はその理由を知ると同時にフレデリック・ハーズバーグの「動機づけ衛生理論」の確認を意図したものである。

Q9-1 あなたは職場生活に満足していますか、それとも不満ですか。

- |              |              |
|--------------|--------------|
| 1 満足している     | 4 どちらかといえば不満 |
| 2 どちらかといえば満足 | 5 不満である      |
| 3 どちらともいえない  |              |

「あなたの仕事に満足しているか」と質問した場合には、ほとんどの労働者にとって、それは仕事のない状況との比較になってしまい、実際よりも多くの人々が「満足している」と答えることになる。そのような不都合を避けるために、われわれは「あなたは職場生活に満足していますか——」という問を用いた。それが原因かどうか明らかではないが、一般の調査に比較して、満足者の数がいくらか少ない。さらに回生が後になるほど、減少する傾向が認められる。「1満足している」と「2どちらかといえば満足」を合わせた比率が、1～7回生で60.5パーセント、10, 11回生で43.8パーセント、15, 16回生では41.5パーセントである。反対に、「4どちらかといえば不満」と「5不満である」を合わせた比率が増加する傾向がある（20.5%, 33.9%, 34.1%）。

Q9-2 満足あるいは不満の主な理由を記入してください。（具体的に記入）

この質問は回答者に自由に記述してもらい、アフター・コーディングをおこなった。コードの採り方は、回答カードの一部を調査し、その答をもとにして分類カテゴリーを決める方法がとられた。またこの問の集計は、回生によらないで、Q9-1選択肢とのクロス集計を採用した。

満足者の中で、その理由として多くの人々があげているのは、「5仕事それ自体」（21,5%）、「6

個性、能力の発揮」(17.7%)、「3人間関係」(16.1%)である。他方、不満者が多くあげている理由は、「3人間関係」(22.0%)、「2勤務時間、休暇」(15.7%)、「収入」(15.2%)である。

「人間関係」を除けば、満足者の多くがあげている理由は、フレデリック・ハーズバーグの「動機づけ要因」に属し、不満の多くがあげている理由はかれの「衛生要因」に属す。「人間関係」が両方にあげられているのは、それを重要視する日本人的な特性であろうか。

Q9-3 もし、もう一度すっかりやり直せるとしたら、あなたはどんな種類の仕事につきたいと思いますか。Q4-1の項目から選んでください。

最も確かなたった一つの職務不満の尺度は、「もし、もう一度すっかりやり直せるとしたら、どんな種類の仕事につきたいか」という質問にたいする返答である<sup>6)</sup>。この質問は不満者をより正確にとらえるのに役立つであろう。この方法では、現在の職業と同一の職業を選んだ人だけが職務満足者ということになる。

現職と同一職業を希望する人が多いのは、「7公務員・教職員」(42.3%)と「1自営業」(39.2%)である。つぎに「9その他」が22.1パーセントで、「3管理職」が10.2%である。ちなみに、回生と希望職種のカロス集計では、「7公務員・教職員」を選んだ人と「1自営業」を選んだ人が断然多い。前者は増加傾向(31.2%, 30.5%, 45.4%)にあり、後者は減少傾向(38.5%, 33.9%, 25.9%)にある。他の業種を選んだ人はほとんどの業種で10パーセント未満にすぎない。

Q9-4 もし1日が26時間あるとしたら、余分な時間で何をしたいと思いますか。(具体的に記入)

もう一つのかかなり正確な職務満足の尺度は、「もし1日が26時間あるとしたら、余分な2時間で何をしたいと思いますか」と労働者に質問することである<sup>7)</sup>。アフター・コーディングで、具体的に記入されたさまざまな活動を、回答者の職業を考慮したうえで、「1仕事に関連すること」と「2仕事以外のこと」に区分した。

余分な2時間を仕事に関連した活動にあてたいと希望する人は、わずか10パーセント前後にすぎない。他方、仕事以外の活動にあてたいと希望する人は、80パーセント前後も占める。この報告に間に合わなかったが、Q9-3と4の職種別クロス集計に関心もたれる。

## (6) 転 職

この項目は転職回数、定着あるいは転職意識、転職経路、転職上の障害の4つから成っている。

Q10-1 あなたはこれまで何回転職しましたか。

- |               |               |
|---------------|---------------|
| 1 一度も転職しなかった  | 4 3回（現在4度目の職） |
| 2 1回（現在2度目の職） | 5 4回以上        |
| 3 2回（現在3度目の職） |               |

15, 16回生は、調査時に、卒業後1年数ヶ月の人々であるから別に考えるのがよいだろう。1～7回生と10, 11回生では、「一度も転職しなかった」人が50パーセント台で最も多い。転職回数が増すにつれてその該当者が半減し、4回以上の転職経験者は、1～7回生で3.4パーセント、10, 11回生で0.4パーセントとほんのわずかである。

Q10—2 あなたは現在の職場でこれからもずっと続けて働きたいと思いますか。

- 1 ずっと続けたい
- 2 機会があったら変わりたい
- 3 変わりたいと思うが、たぶん現在の職に留まることになるだろう
- 4 転職を決意している

この質問は、今後の転職者の傾向や労働者のモラルを予測するうえで重要な要素と思われる、転職意識を知るために設けられた。

どの回生においても「1 ずっと続けたい」と答えた人が最も多いが、回生が後になるほど減少している（51.2%, 41.6%, 41.0%）。同様に、「3 変わりたいと思うが、たぶん現在の職に留まることになるだろう」も少しずつ減少している（24.4%, 21.5%, 18.5%）。反対に、「2 機会があったら変わりたい」（18.0%, 25.3%, 28.8%）や「4 転職を決意している」（3.4%, 8.2%, 10.2%）はかなりの比率で増加している。

（転職経験のある方に）

Q10—3 あなたはどの職種からどの職種へ変わりましたか。Q4—1の項目でお答えください。（たとえば、2→3→1など）（未集計のため省略）

（転職経験のある方と転職を考えている方に）

Q10—4 あなたの転職上で主な障害は何ですか。また転職を妨げている原因や思い止まっている理由は何ですか。（具体的に記入）

この質問はQ9—2と同様に回答者に自由に記述してもらい、アフター・コーディングをおこなった。コードの採り方は、回答カードの一部を調査し、その答をもとにして分類カテゴリーを決める方法がとられた。

この間には回生間にかかなりの相違が認められる。1～7回生で最も多いのは「4 家庭の都合」

をあげた人(29.1%)であり、つぎが「1 日本的雇用制度による不利」と「5 年齢」の(それぞれ12.8%ずつ)であり、「2 新しい職にたいする不安」(10.5%)である。10, 11回生では、「2 新しい職にたいする不安」と「4 家庭の都合」が最も多い(それぞれ21.6%ずつ)、つぎが「6 希望する職がない」(15.3%)である。15, 16回生で最も多いのは「2 新しい職にたいする不安」(26.2%)であり、つぎが「6 希望する職がない」(20.0%)であり、「4 家庭の都合」(10.8%)である。日本的雇用制度や人間関係が労働者の定着に果す効果はじょじょに薄れているものと思われる。転職時においても、仕事そのものや仕事に必要な能力が中心の問題となりつつある。

Q11 仕事や余暇などに関してご意見がございましたら、回答カードの裏面に自由にお書きください。(未集計のため省略)

#### Ⅳ 回生ごとの集計結果

##### 回生と性別

	1～7回生	10, 11回生	15, 16回生
1 男性	199人 (97.1%)	225人 (96.6%)	195人 (95.1%)
2 女性	6人 (2.9%)	8人 (3.4%)	10人 (4.9%)

Q3 あなたの家族構成はどれですか。

	1～7回生	10, 11回生	15, 16回生
1 独身	30人 (14.6%)	91人 (39.1%)	152人 (74.1%)
2 夫婦のみ	14人 (6.8%)	32人 (13.7%)	6人 (2.9%)
3 夫婦と子供	94人 (45.9%)	39人 (16.7%)	21人 (10.2%)
4 夫婦と祖父母	4人 (2.0%)	12人 (5.2%)	2人 (1.0%)
5 夫婦と子供と祖父母	52人 (25.4%)	31人 (13.3%)	5人 (2.4%)
6 その他	11人 (5.4%)	27人 (11.6%)	18人 (8.8%)
7 無回答	0人 (0)	1人 (0.4%)	1人 (0.5%)

Q4-1 あなたの職業はどれですか。

	1～7回生	10, 11回生	15, 16回生
1 自営業	31人 (15.1%)	35人 (15.0%)	13人 (6.3%)
2 会社事務員	28人 (13.7%)	37人 (15.9%)	44人 (21.5%)

3 管理職	36人 (17.6%)	10人 (4.3%)	3人 (1.5%)
4 販売従業員	26人 (12.7%)	57人 (24.5%)	72人 (35.1%)
5 サービス従業員	5人 (2.4%)	10人 (4.3%)	25人 (12.2%)
6 工場作業員	4人 (2.0%)	8人 (3.4%)	2人 (1.0%)
7 公務員・教職員	51人 (24.9%)	46人 (19.7%)	26人 (12.7%)
8 家事	2人 (1.0%)	1人 (0.4%)	0 (0)
9 その他(具体的に記入)	21人 (10.2%)	28人 (12.0%)	19人 (9.3%)
10 無回答	1人 (0.5%)	1人 (0.4%)	1人 (0.5%)

Q4-2 あなたの勤務先はどの産業に属しますか。

	1～7回生	10, 11回生	15, 16回生
1 農・林・漁業	2人 (1.0%)	7人 (3.0%)	5人 (2.4%)
2 鉱業	0 (0)	0 (0)	0 (0)
3 建設業	9人 (4.4%)	9人 (3.9%)	10人 (4.9%)
4 製造業	15人 (7.3%)	26人 (11.2%)	24人 (11.7%)
5 電気・ガス・熱供給・水道業	3人 (1.5%)	4人 (1.7%)	5人 (2.4%)
6 運輸・通信業	7人 (3.4%)	12人 (5.2%)	3人 (1.5%)
7 卸売業, 小売業, 飲食店	50人 (24.4%)	65人 (27.9%)	64人 (31.2%)
8 金融・保険業	22人 (10.7%)	16人 (6.9%)	16人 (7.8%)
9 不動産業	2人 (1.0%)	1人 (0.4%)	4人 (2.0%)
10 サービス業	32人 (15.6%)	36人 (15.5%)	31人 (15.1%)
11 公務	44人 (21.5%)	39人 (16.7%)	23人 (11.2%)
12 その他(具体的に記入)	17人 (8.3%)	16人 (6.9%)	19人 (9.3%)
13 無回答	2人 (1.0%)	2人 (0.9%)	1人 (0.5%)

Q4-3 あなたが勤務している企業の規模はどれくらいですか。(現在の勤務地だけで)

	1～7回生	10, 11回生	15, 16回生
1 10人未満	51人 (24.9%)	46人 (19.7%)	22人 (10.7%)
2 10～30人未満	25人 (12.2%)	35人 (15.0%)	31人 (15.1%)
3 30～100人未満	26人 (12.7%)	41人 (17.6%)	55人 (26.8%)

4	100～500人未満	51人 (24.9%)	64人 (27.5%)	57人 (27.8%)
5	500人以上	50人 (24.4%)	42人 (18.0%)	38人 (18.5%)
6	無回答	2人 (1.0%)	5人 (2.1%)	2人 (1.0%)

Q 5 あなたは通勤に片道どのくらいかかりますか。

	1～7回生	10, 11回生	15, 16回生	
1	30分以内	116人 (56.6%)	134人 (57.5%)	99人 (48.3%)
2	31～60分未満	58人 (28.3%)	52人 (22.3%)	62人 (30.2%)
3	1時間～1時間半未満	20人 (9.8%)	35人 (15.0%)	28人 (13.7%)
4	1時間半～2時間未満	5人 (2.4%)	6人 (2.6%)	13人 (6.3%)
5	2時間以上	1人 (0.5%)	1人 (0.4%)	2人 (1.0%)
6	無回答	5人 (2.4%)	5人 (2.1%)	1人 (0.5%)

Q 6-1 あなたは平日の余暇をどのように過していますか。(記述してください)

	1～7回生	10, 11回生	15, 16回生	
1	休むレジャー	30人 (14.6%)	36人 (15.5%)	47人 (22.9%)
2	見るレジャー	77人 (37.6%)	101人 (43.3%)	79人 (38.5%)
3	するレジャー	45人 (22.0%)	45人 (19.3%)	37人 (18.0%)
4	買物レジャー	3人 (1.5%)	1人 (0.4%)	4人 (2.0%)
5	働くレジャー	13人 (6.3%)	20人 (8.6%)	7人 (3.4%)
6	その他	9人 (4.4%)	4人 (1.7%)	1人 (0.5%)
7	無回答	28人 (13.7%)	26人 (11.2%)	30人 (14.6%)

Q 6-2 あなたは休日の余暇をどのように過していますか。(記述してください)

	1～7回生	10, 11回生	15, 16回生	
1	休むレジャー	33人 (16.1%)	19人 (8.2%)	21人 (10.2%)
2	見るレジャー	20人 (9.8%)	21人 (9.0%)	16人 (7.8%)
3	するレジャー	110人 (53.7%)	139人 (59.7%)	137人 (66.8%)
4	買物レジャー	8人 (3.9%)	11人 (4.7%)	10人 (4.9%)
5	働くレジャー	26人 (12.7%)	35人 (15.0%)	9人 (4.4%)

6 その他	0 ( 0 )	3人 ( 1.3%)	2人 ( 1.0%)
7 無回答	8人 ( 3.9%)	5人 ( 2.1%)	10人 ( 4.9%)

Q6-3 あなたが長期休暇（夏休，年末年始休など）をどのように過していますか。（記述してください）

	1～7回生	10, 11回生	15, 16回生
1 休むレジャー	16人 ( 7.8%)	13人 ( 5.6%)	13人 ( 6.3%)
2 見るレジャー	4人 ( 2.0%)	4人 ( 1.7%)	3人 ( 1.5%)
3 するレジャー	140人 (68.6%)	167人 (71.7%)	159人 (77.6%)
4 買物レジャー	0 ( 0 )	1人 ( 0.4%)	0 ( 0 )
5 働くレジャー	22人 (10.8%)	12人 ( 5.2%)	2人 ( 1.0%)
6 その他	7人 ( 3.4%)	9人 ( 3.9%)	6人 ( 2.9%)
7 無回答	15人 ( 7.4%)	27人 (11.6%)	22人 (10.7%)

Q6-4 あなたは収入の増加とレジャー機会の増大のどちらを重要視しますか。

	1～7回生	10, 11回生	15, 16回生
1 労働時間の短縮よりも収入の増加がさきだ	25人 (12.2%)	30人 (12.9%)	19人 ( 9.3%)
2 どちらかといえば収入の増加を望む	84人 (41.0%)	103人 (44.2%)	69人 (33.7%)
3 どちらともいえない	26人 (12.7%)	34人 (14.6%)	30人 (14.6%)
4 どちらかといえば自由な時間が欲しい	62人 (30.2%)	46人 (19.7%)	70人 (34.1%)
5 収入の増加よりも自由な時間がさきだ	7人 ( 3.4%)	19人 ( 8.2%)	17人 ( 8.3%)
6 無回答	1人 ( 0.5%)	1人 ( 0.4%)	0 ( 0 )

Q7-1 あなたが最も生きがいを感じているのはどれですか。（1つだけ）

	1～7回生	10, 11回生	15, 16回生
1 趣味娯楽などのレジャー	52人 (25.4%)	102人 (43.8%)	130人 (63.4%)
2 収入を主な目的とする仕事	45人 (22.0%)	50人 (21.5%)	41人 (20.0%)
3 家庭の建設や子供の育成	89人 (43.4%)	55人 (23.6%)	15人 ( 7.3%)

4 その他（具体的に記入）	14人（6.8%）	22人（9.4%）	17人（8.3%）
5 無回答	5人（2.4%）	4人（1.7%）	2人（1.0%）

Q7-2 あなたが最も生きがいを感じているのはどんな時ですか。（重要な順に2つまで）

	1～7回生	10, 11回生	15, 16回生
1 自己の能力が発揮できた時	115人（56.1%）	111人（47.6%）	116人（56.6%）
2 人間関係がうまくいっている時	34人（16.6%）	53人（22.7%）	65人（31.7%）
3 自分が社会に役立っている時	30人（14.6%）	29人（12.4%）	29人（14.1%）
4 生活が豊かになったと思う時	26人（12.7%）	31人（13.3%）	18人（8.8%）
5 子供の成長をながめる時	28人（13.7%）	27人（11.6%）	4人（2.0%）
6 レジャーを楽しむ時	26人（12.7%）	56人（24.0%）	71人（34.6%）
7 家族の団らんの時	35人（17.1%）	28人（12.0%）	12人（5.9%）
8 信仰や理想に生きる時	3人（1.5%）	8人（3.4%）	5人（2.4%）
9 健康で平穏な日が続く時	54人（26.3%）	52人（22.3%）	31人（15.1%）
10 将来のことを考える時	6人（2.9%）	14人（6.0%）	15人（7.3%）
11 特になし	3人（1.5%）	6人（2.6%）	5人（2.4%）
12 その他（具体的に記入）	4人（2.0%）	2人（0.9%）	4人（2.0%）
13 無回答	46人（22.4%）	49人（21.0%）	35人（17.1%）

※ 全体で200パーセント

Q7-3 あなたは仕事とレジャーの関係をどのように考えていますか。

	1～7回生	10, 11回生	15, 16回生
1 仕事は人間のつとめだ。レジャーのことなど考えずに、いっしょうけんめい仕事にうちこみたい。	2人（1.0%）	5人（2.1%）	0（0）
2 仕事はよろするに生活の手段にすぎない。レジャーを楽しむことが人間の生きがいだ。	7人（3.4%）	20人（8.6%）	18人（8.8%）
3 仕事は仕事、レジャーはレジャーだ。仕事は適当にかたづけ、レジャーはレジャーでほどほどに楽しみたい。	13人（6.3%）	41人（17.6%）	31人（15.1%）
4 仕事がレジャーを楽しくし、レジャーが仕事の活力となる。いっしょうけんめい仕事をし、思う存分レジャーを楽しみたい。	170人（82.9%）	162人（69.5%）	150人（73.2%）



5 仕事さえしていれば楽しい、仕事とレジャーの区別はしていない。だから仕事から解放されてレジャーを楽しみたいとは思わない	8人 ( 3.9%)	2人 ( 0.9%)	4人 ( 2.0%)
6 その他 (あなたの考え方を記述してください)	3人 ( 1.5%)	2人 ( 0.9%)	2人 ( 1.0%)
7 無回答	2人 ( 1.0%)	1人 ( 0.4%)	0 ( 0 )

Q8-1 あなたは大学で何が得られたと思いますか。(重要な順に2つまで)

	1～7回生	10, 11回生	15, 16回生
1 専門的な知識が身についた	7人 ( 3.4%)	11人 ( 4.7%)	12人 ( 5.9%)
2 職業的スキルが身についた	5人 ( 2.4%)	0 ( 0 )	2人 ( 1.0%)
3 一般的な教養が身についた	81人 (39.5%)	81人 (34.8%)	49人 (23.9%)
4 自分の才能を見つけ出し、それを伸ばすことができた	15人 ( 7.3%)	28人 (12.0%)	23人 (11.2%)
5 先生との個人的接触をもつことができた	30人 (14.6%)	15人 ( 6.4%)	18人 ( 8.8%)
6 学友との深い友情が得られた	83人 (40.5%)	114人 (48.9%)	124人 (60.5%)
7 学生生活を楽しむことができた	113人 (55.1%)	122人 (52.4%)	120人 (58.5%)
8 特になし	15人 ( 7.3%)	16人 ( 6.9%)	11人 ( 5.4%)
9 その他 (具体的に記入)	15人 ( 7.3%)	24人 (10.3%)	18人 ( 8.8%)
10 無回答	46人 (22.4%)	55人 (23.6%)	33人 (16.1%)

※ 全体で200パーセント

Q8-2 あなたは大学卒業後、何かを学ぶ機会をもちましたか。あるいは何かを学ぶ機会をもちたいと思いますか。

	1～7回生	10, 11回生	15, 16回生
1 何かを学ぶ機会を得た	107人 (52.2%)	127人 (54.5%)	95人 (46.3%)
2 ぜひ学ぶ機会をもちたいと思います、そのために準備している	13人 ( 6.3%)	18人 ( 7.7%)	31人 (15.1%)
3 機会にめぐまれたならば、学びたい	79人 (38.5%)	75人 (32.2%)	73人 (35.6%)
4 機会があっても、学ばないだろう	3人 ( 1.5%)	6人 ( 2.6%)	2人 ( 1.0%)
5 学ぶ必要を感じない	3人 ( 1.5%)	7人 ( 3.0%)	3人 ( 1.5%)
6 無回答	0 ( 0 )	0 ( 0 )	1人 ( 0.5%)

(Q8-2で1, 2, 3と答えた方に)

Q8-3 あなたが学んでいる,あるいは学びたいと思う内容はどれですか。

	1～7回生	10, 11回生	15, 16回生
1 職業上必要な知識や技術	65人 (31.7%)	77人 (33.0%)	79人 (38.5%)
2 職業に関連する知識や技術	77人 (37.6%)	76人 (32.6%)	68人 (33.2%)
3 一般的な教養	24人 (11.7%)	21人 (9.0%)	29人 (14.1%)
4 家庭生活に役立つ知識や技術	5人 (2.4%)	8人 (3.4%)	4人 (2.0%)
5 趣味や余暇に役立つ知識や技術	18人 (8.8%)	26人 (11.2%)	13人 (6.3%)
6 その他(具体的に記入)	8人 (3.9%)	12人 (5.2%)	8人 (3.9%)
7 無回答	8人 (3.9%)	13人 (5.6%)	4人 (2.0%)

(Q8-2で1, 2, 3と答えた方に)

Q8-4 あなたはどのような機関や施設を利用していますか,あるいは利用したいと思いますか。

	1～7回生	10, 11回生	15, 16回生
1 図書館	37人 (18.0%)	31人 (13.3%)	26人 (12.7%)
2 大学の公開講座	17人 (8.3%)	7人 (3.0%)	5人 (2.4%)
3 専門学校	20人 (9.8%)	14人 (6.0%)	16人 (7.8%)
4 社内研修制度	44人 (21.5%)	62人 (26.6%)	56人 (27.3%)
5 通信講座	23人 (11.2%)	32人 (13.7%)	27人 (13.2%)
6 カルチャ・センターやスポーツ教室	19人 (9.3%)	22人 (9.4%)	27人 (13.2%)
7 サークル活動	19人 (9.3%)	23人 (9.9%)	21人 (10.2%)
8 その他(具体的に記入)	11人 (5.4%)	19人 (8.2%)	14人 (6.8%)
9 無回答	15人 (7.3%)	23人 (9.9%)	13人 (6.3%)

Q9-1 あなたは職場生活に満足していますか,それとも不満ですか。

	1～7回生	10, 11回生	15, 16回生
1 満足している	124人 (60.5%)	102人 (43.8%)	85人 (41.5%)
2 どちらかといえば満足			
3 どちらともいえない	35人 (17.1%)	49人 (21.0%)	49人 (23.9%)

4	どちらかといえば不満 不満である	42人 (20.5%)	79人 (33.9%)	70人 (34.1%)
5		4人 (2.0%)	3人 (1.3%)	1人 (0.5%)
6	無回答			

Q9-2 満足あるいは不満の主な理由を記入してください。(具体的に記入)

	満 足 者	中 間 者	不 満 者
1 収入	25人 (8.0%)	6人 (4.5%)	29人 (15.2%)
2 勤務時間, 休暇	14人 (4.5%)	9人 (6.8%)	30人 (15.7%)
3 人間関係	50人 (16.1%)	12人 (9.0%)	42人 (22.0%)
4 物理的作業環境	4人 (1.3%)	0 (0)	5人 (2.6%)
5 仕事それ自体	67人 (21.5%)	7人 (5.3%)	20人 (10.5%)
6 個性, 能力の発揮	55人 (17.7%)	4人 (3.0%)	19人 (9.9%)
7 責任, 権限	24人 (7.7%)	1人 (0.8%)	12人 (6.3%)
8 会社の将来性や希望	7人 (2.3%)	3人 (2.3%)	13人 (6.8%)
9 家庭の都合	1人 (0.3%)	0 (0)	3人 (1.6%)
10 社会に役立つ	7人 (2.3%)	0 (0)	1人 (0.5%)
11 その他	13人 (4.2%)	8人 (6.0%)	4人 (2.1%)
12 無回答	44人 (14.1%)	83人 (62.4%)	13人 (6.8%)

Q9-3 もし、もう一度すっかりやり直せるとしたら、あなたはどんな種類の仕事につきたい  
と思いますか。Q4-1の項目から選んでください。

	1~7回生	10, 11回生	15, 16回生
1 自営業	79人 (38.5%)	79人 (33.9%)	53人 (25.9%)
2 会社事務員	4人 (2.0%)	17人 (7.3%)	12人 (5.9%)
3 管理職	9人 (4.4%)	5人 (2.1%)	2人 (1.0%)
4 販売従業員	1人 (0.5%)	8人 (3.4%)	13人 (6.3%)
5 サービス従業員	10人 (4.9%)	7人 (3.0%)	5人 (2.4%)
6 工場作業員	0 (0)	2人 (0.9%)	1人 (0.5%)
7 公務員・教職員	64人 (31.2%)	71人 (30.5%)	93人 (45.4%)
8 家事	1人 (0.5%)	1人 (0.4%)	1人 (0.5%)

9 その他（具体的に記入）	19人（9.3%）	24人（10.3%）	18人（8.8%）
10 無回答	18人（8.8%）	19人（8.2%）	7人（3.4%）

現在の職業と同一職業を選んだ人数。

	1. 現在の職業	2. 希望も同一職業 2/1
1 自営業	79 人	31 人（39.2%）
2 会社事務員	109 人	8 人（7.3%）
3 管理職	49 人	5 人（10.2%）
4 販売従業員	155 人	12 人（7.7%）
5 サービス従業員	40 人	1 人（2.5%）
6 工場作業員	14 人	1 人（7.1%）
7 公務員・教職員	123 人	52 人（42.3%）
8 家事	3 人	0（0）
9 その他	68 人	15 人（22.1%）

Q9-4 もし1日が26時間あるとしたら、余分な2時間で何をしたいと思いますか。（具体的に記入）

	1～7回生	10, 11回生	15, 16回生
1 仕事に関連すること	21人（10.4%）	22人（9.5%）	15人（7.4%）
2 仕事以外のこと	156人（77.2%）	184人（79.3%）	178人（87.3%）
3 無回答	25人（12.4%）	26人（11.2%）	11人（5.4%）

Q10-1 あなたはこれまで何回転職しましたか。

	1～7回生	10, 11回生	15, 16回生
1 一度も転職しなかった	116人（56.6%）	125人（53.6%）	189人（92.2%）
2 1回（現在2度目の職）	48人（23.4%）	73人（31.3%）	13人（6.3%）
3 2回（現在3度目の職）	23人（11.2%）	28人（12.0%）	2人（1.0%）
4 3回（現在4度目の職）	11人（5.4%）	5人（2.1%）	0（0）
5 4回以上	7人（3.4%）	1人（0.4%）	0（0）
6 無回答	0（0）	1人（0.4%）	1人（0.5%）

Q10-2 あなたは現在の職場でこれからもずっと続けて働きたいと思いませんか。

	1～7回生	10, 11回生	15, 16回生
1 ずっと続けたい	105人 (51.2%)	97人 (41.6%)	84人 (41.0%)
2 機会があったら変わりたい	37人 (18.0%)	59人 (25.3%)	59人 (28.8%)
3 変わりたいと思うが、たぶん現在の職に留まることになるだろう	50人 (24.4%)	50人 (21.5%)	38人 (18.5%)
4 転職を決意している	7人 (3.4%)	19人 (8.2%)	21人 (10.2%)
5 無回答	6人 (2.9%)	8人 (3.4%)	3人 (1.5%)

(転職経験のある方に)

Q10-3 あなたはどの職種からどの職種に変わりましたか。Q4-1の項目でお答えください。(たとえば、2→3→1など)(未集計のため省略)

(転職経験のある方と転職を考えている方に)

Q10-4 あなたの転職上で主な障害は何ですか。また転職を妨げている原因や思い止まっている理由は何ですか。(具体的に記入)

	1～7回生	10, 11回生	15, 16回生
1 日本的雇用制度による不利	11人 (12.8%)	10人 (9.0%)	5人 (7.7%)
2 新しい職にたいする不安	9人 (10.5%)	24人 (21.6%)	17人 (26.2%)
3 上役などの反対	3人 (3.5%)	6人 (5.4%)	5人 (7.7%)
4 家庭の都合	25人 (29.1%)	24人 (21.6%)	7人 (10.8%)
5 年齢	11人 (12.8%)	8人 (7.2%)	1人 (1.5%)
6 希望する職がない	5人 (5.8%)	17人 (15.3%)	13人 (20.0%)
7 世間体	2人 (2.3%)	2人 (1.8%)	4人 (6.2%)
8 その他	20人 (23.3%)	20人 (1.8%)	13人 (20.0%)

Q11 仕事や余暇などに関してご意見がございましたら、回答カードの裏面に自由にお書きください。(未集計のため省略)

V おわりに

この調査の回答率は12パーセントたらずという、予想外に低いものであった。しかし回答者の

多くが余白いっぱいにご自分の意見を書いておられ、かれらの仕事やレジャーにたいする関心の強さを知ることができた。貴重な時間をさいて、調査にご協力くださった卒業生の皆様に心より感謝致します。皆様からお寄いただいたご意見を活かし、さらに発展した実態調査が再度実施できるよう期待致します。

- 1) 詳しくは、拙稿「坂戸市民の余暇活動調査」(『城西経済学会誌』, 第17巻, 第2号)を参照。
- 2) 他の調査結果については、Kunio Odaka, *Toward Industrial Democracy: Management and Workers in Japan*, Harvard University Press, 1975, p. 146 と拙稿「坂戸市民の仕事とレジャーにたいする考え方」(『城西経済学会誌』, 第17巻, 第3号)を参照。
- 3) この質問中のすべての比率が、2つまで選択のため、合計を200パーセントとして表示されている。
- 4) 他の調査結果については、尾高邦雄著『職業の倫理』中央公論社, 昭和45年, p. 289 と拙稿「坂戸市民の仕事とレジャーにたいする考え方」を参照。
- 5) この質問中のすべての比率が、2つまで選択のため、合計を200パーセントとして表示されている。
- 6) Report of Special Task Force to the Secretary of Health, Education, and Welfare, *Work in America*, The MIT Press, 1973, p. 15 [抄訳: 岡井紀道訳『労働にあすはあるか』日本経済新聞社, 昭和50年, p. 34]。
- 7) Ibid., p. 16 (訳書 p. 35)。